

障害者が作る素敵な商品の数々

得意と強みを生かして社会とつながる



本市では2021年6月から障害者施設で作られた商品をオンラインストア「サデコ MONO がたり」で販売しています。

人気商品の「ばらたま」は、

多肉植物をカラフルな毛糸でくるんだインテリア小物。

愛らしい見た目で人気があります。

この「ばらたま」を製作しているのが見沼区にある「ばらだいすかふえ」。

障害のある利用者や、その支援者たちが、

障害の有無に関わらずいきいきと活動しています。

ばらだいすかふえを運営する（一社）あるかであ代表理事の

鈴木美佐子さんに、お話を聞きました。

PROFILE

鈴木美佐子さん（58）

見沼区在住。（一社）あるかであ代表理事。2015年にあるかであ設立。障害がある方の生活を支援するサービスを手掛ける。

働ける喜びを共有したい

—どんな事業を手掛けているのですか。

障害がある方の生活を支援するサービスを提供しています。生きる喜び、働く喜び、社会とつながる喜びを皆で共有していきたいなと日々思っています。

私があるかであを設立したのは、50歳のときでした。当時、喉や腰などを手術して、話せない、歩けないという経験をしたんです。障害者が周囲に望むであろうことを身をもって感じて、もっとその力にならないだろうかと考え、事業を始めました。

目指すのは品質の高さ

—ばらだいすかふえで作る人気商品「ばらたま」のことを教えてください。

ばらたまは、植木鉢を使わず

に多肉植物の根を水苔ミズシホで包んで、外側をカラフルな毛糸で巻いたものです。名前は、ばらだいすかふえの「ばら」とパラリンピックの「パラ」、さいたまの「たま」、そして苔玉の「たま」にちなんでいます。水やりは丸ごと水につけるだけで、手軽に生活の中に取り入れられます。

多肉植物は、ポロっと葉が落ちるんですけど、その葉を捨てて植え直す芽吹いてくれるんです。長く育てることができ、たくさん増えて、見た目がかわいらしい。これを何かにできないかなと思ったのが、製作のきっかけです。水苔をまとめるのに使う糸を、キラキラした糸に変えたり、その外側にカラフルな毛糸を使ったりと工夫して、今の形になりました。

ばらだいすかふえで作った商品は、もともと市内で開かれるイベントなどで販売してきました。ですが2020年以



降、コロナ禍でイベントの中止が相次ぎ、売り上げが下がってしまっただけです。それだけに、ネットで販売できる「サデコ MONO がたり」に魅力を感じ、2021年6月のオープン時から出品しています。

購入したお客さんからは「かわいくてほっとする」「癒やされる」といった声が届いています。購入後、「こんなに元気に育っています」と写真や絵はがきで報告してくれるお客さんもあります。そういう声が届くと嬉しいですね。

ばらだいですかふえは「就労継続支援 B 型事業所」といって、利用者に就労訓練として軽作業をしてもらい、生産物に対する成果報酬を工賃として支払います。ばらたまの人気が出たことで、工賃にも還元することができました。利用者のモチベー

ションはすごく上がっていて、たくさん作って、たくさん売ろうねと話しています。

できれば、障害者が作ったから買おうというよりも、販売しているものを手に取ったら実は障害者が作ったものだったというくらい、クオリティの高い商品にしたいですね。

ばらたまを手元に届けるまでには、多肉植物を育てる作業から、水苔を糸で束ねたり、毛糸で台座を編んだり、手書きのお札を作ったりといったさまざまな工程があります。利用者それぞれで得意なことが違うので、強みを発揮できること、楽しいことを仕事としてできるよう、工夫しています。どんな作業をしたいか、本人に選んでもらうこともあるんですよ。

皆が楽しい職場に

サデコ MONO がたりを利用して、どんな変化がありましたか。

運営する埼玉デザイン協議会 (SADDECO) に指導してもらって、商品写真の撮り方がずいぶん良くなりました。撮影の

市テレビ広報番組でもサデコ MONO がたりを取り上げています!



動画はこちら (YouTube)



角度や光の当て方を変えることで、以前と見違える写真になっています。

また、出品している市内の事業所との交流も生まれました。商品は違えど、互いに切磋琢磨することで、商品の質や障害のある利用者の工賃の向上にもつながるのは、とても良いことですね。

これからも、利用者も支援者も楽しんで仕事ができる事業所を目指して活動していきます。

ハートフルグッズが勢ぞろい!

サデコ MONO がたりとは

「サデコ MONO がたり」は市内の障害者施設で作られた商品を販売するオンラインストアです。シェフやデザイナー、職人の指導を受けて製作した商品、また、素材にこだわった商品は、さいたま市らしいギフトとしても人気です。

他にも面白い商品がたくさん!



公式ホームページ

「市報さいたま」掲載記念

おためしセット (40個限定)

販売期間…2月17日(金)まで
発送時期…3月上旬以降



詳しくは、障害者総合支援センターへ。
☎ 859・7255 ㊚ 852・3272



おためしセット購入者にヌッ巾着を1点プレゼント!

※画像はイメージです。実際の商品とは異なる場合があります。



が未来をつくる

本市では、2011年、全国の政令指定都市に先駆けて「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」いわゆる「ノーマライゼーション条例」を制定しました。この条例は障害がある人もない人も、安心して生活できる地域社会を目指すもので、障害のある人が地域の一員としてさまざまな活動ができるまちづくりを目指しています。

今回取り上げたオンラインストア「サデコ MONO がたり」に参加する障害者施設は、デザイナー、カメラマンの指導のもと、PR方法や、梱包、撮影方法などの技術を習得し品質を高めたり、新商品の開発を行ったりするなど、障害がある人の自立した生活のため、工賃を上げる努力をしています。こうした施設の努力や、それを市が支えることも、障害のある人が地域の一員として活動ができるまちづくりにつながっていきます。



わたしたちに
できること



「合理的配慮」という言葉があります。難しい言葉に聞こえますが、障害のある人が障害のない人と同じように活動できるように、その人の障害の特性に合わせたさまざまな配慮をすることです。どんな配慮を必要としているのか、それはその人によって違います。まずは勇気をもって、お困りの方に「声掛け」から始めてみませんか？ 私たちにできるその「声掛け」が合理的配慮の一步となり、障害のある人もない人も共に安心して暮らすことのできる地域社会の一步にもなります。



障害があるとはどういうこと？

「障害」は、身体障害や知的障害、精神障害などとどまりません。心や体のたらしがうまくいかないために、毎日の生活や社会での活動に助けが必要な状態も含まれます。また、周りの環境によって制約を受けている状態を障害と捉える「社会モデル」という考え方があります。障害(障壁)の原因は社会にあるので、社会はそれを取り除く責務を負うとする考え方で、市の条例もこれに根差しています。

共に生きる社会

障害のある人とない人が混ざり合うスポーツ ブラインドサッカー®の魅力を知ろう!

本市では、障害のある人もない人も、誰もが安心して生活できるノーマライゼーション社会の実現を目指しています。この考え方が、日本ブラインドサッカー協会のビジョンと重なり、本市ではノーマライゼーションカップとしてブラインドサッカーの親善試合を開催しています。3年ぶりに現地で開催される大会に先駆けて、その魅力を紹介します。



©H.Wanibe/JBFA

自由をくれる スポーツ

ブラインドサッカーの魅力を探ると、選手たちは異口同音にそう答えます。ぶつかって、転んでも、立ち上がってボールを追う。ブラサカのピッチには、視覚障害者が日常では感じる事が難しい「動くことの自由」があります。

昨年は中止になってしまった
対戦でしたが、女子代表も去年よりも
成長している姿を見ていただき、
楽しんでもらえるような
ブラインドサッカーを
できるように頑張ります。



©JBFA

ブラインドサッカー
女子日本代表強化指定 菊島宙選手
アジア・オセアニア選手権2022では、
最優秀選手賞と得点王を受賞

ブラサカって?

ゴールキーパー以外が全盲の選手で、アイマスクを装着し、音の出るボールを用いてプレーするイマジネーションとオリエンテーションを駆使した5人制サッカーです。視覚障害者と健常者が力を合わせて勝利を目指すスポーツです。



©H.Wanibe/JBFA

サッカー好きにぜひ見てほしい! 見る人の価値観をひっくり返すサッカー

トップスピードでピッチを走り、キレのあるドリブルで、狙いすましたシュートを放つ。それだけではありません。パスの正確さ、動きながらのトラップ。ディフェンスでの駆け引きや声によるコミュニケーション。そこでは、あなたの想像をはるかに超えるサッカーが展開されています。

さいたま市ノーマライゼーションカップ 2023

期日

2月25日(土)

会場

サイデン化学アリーナ
(桜区道場)

※会場へは、公共交通機関をご利用ください。

※館内履きをご持参ください。

試合スケジュール

第1試合 12:30キックオフ

ブラインドサッカー

男子ナショナルトレセン VS 男子ユーストレセン

第2試合 14:30キックオフ

ブラインドサッカー

女子日本代表 VS 男子ユーストレセン



今月の表紙

商品の販売で
社会とつながる
喜びを感じる

